

関節リウマチ患者の主観的症候を軽減させるための心理・社会的支援プログラムの開発とその有効性の評価

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平井, 孝次郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003376

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 38 号

関節リウマチ患者の主観的症候を軽減させるための心理・社会的支援プログラムの開発とその有効性の評価

(Development of a psychosocial support program to reduce subjective symptoms in rheumatoid arthritis patients and evaluation of its effectiveness)

平井 孝次郎 (ひらい こうじろう)

博士 (看護学)

論文内容の要旨

【目的】

本研究の目的は、関節リウマチ患者の主観的症候を軽減するための心理・社会的支援プログラムの開発と、その有効性を検討することである。

【方法】

1. プログラム開発

第1研究では、通院する関節リウマチ患者に質問紙調査を実施し、主観的症候に影響する心理・社会面を明確化した。第2研究では、第1研究の結果を基盤として「関節リウマチ患者の主観的症候を軽減するための心理・社会的支援プログラム」を作成した。さらに、プログラムの妥当性を確保するために専門職者・有識者と検討した。

2. プログラムの有効性の検討

第3研究では、主観的症候を有する日本リウマチ友の会の会員25名を対象に2群の非ランダム化比較試験を実施した。介入群には、3か月間プログラムを実施した。プログラムは対象者が生活を振り返り記載するプログラムシートに加え、研究者による定期的な計5回の電話介入で構成されている。主要評価指標は、主観的症候（疼痛・倦怠感・朝のこわばり）の1・3か月値とした。副次的評価指標を主観的QOL尺度得点、精神回復力尺度得点とした。

【結果・考察】

質問紙調査 (n=93) では、関節リウマチ患者の主観的症候に最も影響していた心理・社会面は主観的QOLであり、主観的QOLに強く影響していたのは精神的回復力であった。この結果を基盤としてプログラムを作成した。専門職者・有識者 (n=6) によるプログラム検討の結果から、目標設定の追加等の修正を行った。

非ランダム化比較試験では2群間の均質性が確保できなかったため、各群において分析した。介入群 (n=16) はプログラム開始から1か月で疼痛、3か月で倦怠感が有意に改善した。朝のこわばりは有意な改善を認めなかった。対照群 (n=9) では主観的症候は改善しなかった。また、介入群において開始3か月で主観的QOL尺度得点の有意な向上を認めた。精神的回復力は有意に向上しなかった。対照群では両得点に有意な変化はなかった。

プログラム介入による疼痛と倦怠感の改善は、主観的QOLの向上によるものと推察される。精神的回復力尺度得点の有意な向上を得られなかった。今後はプログラムを再検討し、より効果的なプログラムに修正する必要がある。

【結論】

心理・社会的支援プログラムにより、関節リウマチ患者の疼痛と倦怠感が軽減されることが確認された。主観的症候を有する関節リウマチ患者への心理・社会的支援の重要性が示唆された。